

# 令和3年度 荒川上流河川事務所管内 水防連絡会

4月28日(水)に、河川法、水防法及び災害対策基本法の趣旨に基づき、事務所管理区間に係わる水防関係機関の協力、連携強化を図り河川管理の万全を期することを目的として、「令和3年度荒川上流河川事務所管内水防連絡会」を開催しました。

連絡会では、水防、気象に関する情報提供の他、コロナ禍における工夫した水防訓練の紹介等について紹介がありました。



## ○会長(事務所長)より

- ・訓練したことしか本番でできない という教訓もある。事前の準備のみでは無く、本災害に向けて実際に動かしてみることが重要である。
- ・危機管理型水位計、河川簡易型監視カメラを、事務所と県で大幅に増設した。  
出水に備え、事前に接続方法、見え方を確認して欲しい。
- ・昨年度は、コロナ禍で水防訓練を中止している自治体も多い。今年度、コロナ禍の中で工夫して水防訓練等を開催予定の自治体等があれば、関係機関の参考として紹介して欲しい。

## ○副会長(吉見町長)より

- ・毎年5月末に開催しているが、昨年度はコロナ禍もあり中止とした。
- ・町の水防団では特に若手の入団もあるので、基本的に応援に取り組むように工夫をしているところ。
- ・先月、町のハザードマップ(洪水、地震、土砂災害)を、一まとめして作成した。  
出水期に入る前に、町の75の行政区に職員を派遣して、蜜にならない程度で区長、班長等に集ってもらい、ハザードマップの見方等を説明する予定。
- ・町では土のうを1,000袋確保済み。吉見町は昔の4か村が合併している。各旧村に農協があるので土のうをパレット積みにしてある。何かあれば、被災箇所まで運搬できるように準備済。
- ・昨年度、コロナ禍における避難所を開設する場合、どのように運営するか訓練を実施した。蜜になるから避難者に帰ってはと言えない。まずは感染防止の徹底を行い、目の前の命をしっかり守る。その後、状況が落ち着いたら、感染防止を再度考えていく。
- ・訓練を実施しても、更なる事が起こりえると感じている。あらゆる事を想定しながら、事前準備を含めてしっかり取り組んで行く。
- ・町では新たに危機管理室を設置した。しっかりと機能させていく。